



北の縄文

HOKKAIDO JOMONCLUB NEWSLETTER

2025 Spring Vol. 35

CONTENTS

- P1 巻頭ごあいさつ
- P2-5 特集：縄文雪まつり 2025 結果
- P6 道庁からのお知らせ
- P7 北海道縄文のまち連絡会のページ
- P8 事務局から・編集後記

巻頭ごあいさつ



北の縄文道民会議 理事 笹原 晶 博

株式会社北海道銀行 取締役会長
一般社団法人札幌観光協会 会長



2021 年 7 月に「北海道・北東北の縄文遺跡群」の世界文化遺産登録が実現してから、早いもので間もなく 4 年を迎えるところとなりました。

日本では、現在 26 の世界遺産が登録されておりますが、世界自然遺産である「知床」と世界文化遺産の「北海道・北東北の縄文遺跡群」の 2 つがこの北海道に存在することは、一道民として大変誇らしく、これまでの世界遺産登録に向けたご尽力及び登録後の普及活動に精力的に取り組んでこられた当会議の会員の皆様に、心から敬意を表します。

“北の縄文”は、北海道と東北地方に一万年以上続いた貴重な歴史文化であり、先人の生きる知恵や高度な技術、ゆたかな社会文化など、現代の人間にとっても非常に学ぶべき事の多い文化遺産であると感じております。このような歴史価値の高い北の縄文文化を、北海道の財産として、地域と北海道の発展のためにどのように活用していくことができるかが今後の取組のなかで重要なものだと思います。

私が会長を務める札幌観光協会では、世界規模のイベントである「さっぽろ雪まつり」を運営していますが、今年も日本国内はもとより、世界各地から 200 万人を超える来場客の方にお越しいただきました。この雪まつりの期間に、札幌駅前通りのチカホ（地下歩行空間）では、北の縄文道民会議が主催した「縄文雪まつり 2025」が開催されました。2 日間にわたるイベントに、1 万 3600 人もの来場があったとお聞きしており、改めて「北の縄文文化」に対する感心の高さを認識したところです。

「北の縄文文化」の魅力は、北海道の観光のコンテンツとして大きなポテンシャルを秘めていると思います。この素晴らしい北海道の歴史文化を、広く世界に発信していくことができるよう、微力ながら努めて参りたいと思います。

「北の縄文リレー展 2024 in 幕別」を開催しました！

道民のみなさまに北海道の縄文文化の魅力を発信し、その価値や保全への理解を深めていただくため、幕別町、帯広市、音更町、芽室町、浦幌町及び釧路市と連携し、「北の縄文展リレー展 2024 in 幕別」を令和6年8月31日から令和7年1月31日まで、幕別町ふるさと館で開催しました。

「北海道・北東北の縄文遺跡群」に関する解説パネルや構成資産の出土品のほか、幕別町を中心に十勝地方の代表的な縄文遺跡の出土品を展示しました。

なお、現在、パネル展「世界文化遺産『北海道・北東北の縄文遺跡群』」を釧路市立博物館で令和7年6月29日まで開催中です。今年度も、「北の縄文」の魅力を発信してまいります！



【関連イベント】

◆縄文セミナーin 幕別 「縄文を知ろう」をテーマに、講演を行いました。

「ユネスコ世界遺産『北海道・北東北の縄文遺跡群』と北海道の縄文」

村本周三(北海道縄文世界遺産推進室)

「日高山脈を越えて」

越田賢一郎氏(札幌国際大学縄文世界遺産研究室)

「幕別途別7遺跡の発掘調査」

富永勝也氏(北海道埋蔵文化財センター)

「新得町屈足17遺跡と釧路町天寧1遺跡の発掘調査」

福井淳一氏(北海道埋蔵文化財センター)



◆縄文キッズセミナーin 幕別 「縄文を学ぼう」をテーマに、講演等を行いました。

「縄文文化ってなあに！？」 越田賢一郎(札幌国際大学縄文世界遺産研究室)

「縄文時代の狩り」 福井淳一(北海道埋蔵文化財センター)

「縄文土器を知ろう」 村本周三(北海道縄文世界遺産推進室)

「ミニチュア土器を作ろう」 渡井瞳(札幌国際大学縄文世界遺産研究室)ほか



縄文世界遺産の「触れる展示物」が完成しました！

多くの方々に縄文世界遺産への興味関心をもっていただくことを目的に、各構成資産・関連資産のシンボリックな出土品を模した、触れる展示物を制作しました。

障がい者就労支援施設「いるば28」の皆さまに制作をお願いし、本物そっくりな展示物が完成、2月8・9日の「縄文雪まつり」で初披露となりました。

今後は、様々な場所に出向いて、たくさんの方々に触れていただき、親しんでいただこうと考えています。



「考古学カフェ2025」を開催します！！

道内の30の市町村で構成する「北海道縄文のまち連絡会」では、縄文文化や北海道内の遺跡に触れて親しんでいただくための普及イベント「考古学カフェ」を開催しています。

今年の考古学カフェは、北海道庁縄文世界遺産推進室との共催により、さらにパワーアップ！！

日時：令和7年7月5日（土）～7月6日（日）

会場：チ・カ・ホ北大通交差点広場（東）

内容：①出土品・パネル展示

加盟自治体等からとっておきの資料を持ち寄って展示します！

②縄文のまちトークショー

学芸員がそれぞれのまちの遺跡の魅力を紹介します！

③縄文体験

土器の模様を写し取った「しおり」作り（予定）など、いろいろな体験メニューをご用意しています！

* 詳細は決まり次第、随時ホームページ等でお知らせします。
多くの皆様のご参加をお待ちしております！！



春だ！遺跡を巡ろう。

北海道縄文のまち連絡会では、北海道各地の遺跡をめぐるスタンプラリーを実施しています。2023年に新たに加盟した釧路市の北斗遺跡が加わり、41遺跡を巡ります。

スタンプを5個以上集めると素敵な景品をもらえます。さらに、41個全て集めるとすてきな特典があります。

詳細はHPに。

台紙もダウンロードできます。



北海道
**縄文のまち
スタンプラリー**

北海道内の遺跡をめぐるって
縄文グッズをゲットしよう！！

縄文のまちハンドブック
遺跡や展示施設の詳細はコチラから！！

阿部千春先生、函館へ

北の縄文道民会議の「専門アドバイザー」として数々の助言をいただいている阿部千春先生。4月から活動の拠点を函館市に移されました。今後も、北海道庁特別研究員として（在勤は渡島総合振興局）と一般財団法人道南歴史文化振興財団（函館市縄文文化交流センター内）のアドバイザーとして、縄文世界遺産の意義を国内外に伝えていただきます。阿部先生から、新しい活動への意気込みが寄せられました。



函館市縄文文化交流センター館長の職を辞し、北海道庁にお世話になって10年。ミッションの世界遺産登録が実現し、活用の方角性も示されたため3月末で札幌を離れ函館に戻ることになりました。

ご存じのとおり、世界遺産は「文化遺産の保護を通じて国際社会の平和に寄与する」ことを目的としていますが、2021年に「京都ビジョン」と呼ばれる新たな指針が加わりました。そこには「世界遺産と地域社会との関係は世界遺産条約の中心であり、人口増と開発圧力、気候変動など、現在世界が直面している課題に取り組む基礎をなす」と記載されています。

この指針により「縄文は必ず登録になる」と確信しました。そうして、縄文1万年のなかで人類がどのように自然と向き合ってきたのかを推薦書にまとめ、それがユネスコに認められたのです。

ただ、登録に気を取られ見落としていたことがありました。それはこの指針の前半「世界遺産と地域社会との関係は世界遺産条約の中心であり」という部分。この主旨は「世界遺産の真の保護者は地域住民なのだから、世界遺産の活用で得た資金を地域社会に配分し、遺産の保全と活用に関わる人材の育成などにより、持続可能な遺産の保護の仕組みを構築することが重要」ということです。

この仕組みこそが遺産保護や観光振興にとって重要であり、地域の笑顔の源となると考えています。そして、そのモデルを創ることが私の新たなミッションと考えています。（阿部千春）

◆阿部先生と荒川裕生代表との対談をHPに掲載しています。縄文世界遺産にかける思いが語られています。



◆2023年、阿部先生が北海道の遺跡について解説した動画を制作しました。YouTubeでご覧いただけます。



北の縄文道民会議
Hokkaido Jomon Culture Promotion Council



今年2月、帯広では一晩に120センチ、3月、道内各地は冬の巻返し「ドカ雪」に見舞われ「地球温暖化の影響」を実感。時に厄介で時に凶暴な雪も「溶けてしまえば、ただの水」と恨み節が口をつく。いま、フクジュソウの黄色い花が顔を出し、ようやく北海道にも春がやってきました。会員の皆さま、いかがお過ごしでしょうか。

このたび『北の縄文』35号をお届けします。笹原晶博様からご寄稿いただきお礼申し上げます。

当会議は2月8・9日、札幌のチカホで道内各地の縄文LOVEな皆さんの結集を得て「縄文雪まつり2025」を開催。1万3千人超の来場者で大盛況でした。このまつりを通し、参加者が互いに新たな連携や発信方法を模索し、さらに未来に向けた取組につなげる力を確認したところです。

編集局一同、今後も「縄文パワー全開」で北の縄文文化の価値や魅力の発信に努めてまいります。

編集・発行：世界文化遺産登録の縄文遺跡群と全北海道の縄文遺跡群の活用を推進する道民会議（北の縄文道民会議）

編集 谷 紘道、北海道縄文世界遺産推進室

TEL：011-221-1122 FAX：011-221-0117 <http://www.jomon-do.org/> E-mail ebisutani@chuo-bus.co.jp